

NPO 法人日本フッ化物むし歯予防協会 2022 年 1 月 30 日 第 20 期第 1 回研修会

Zoom ウェビナー研修会「水道水フッ化リレーション研修会 I」

第 1 回アメリカにおける 77 年の水道水フッ化リレーションの成果

閉会後に寄せられた質問にお答えします。

質問 1. 所得が低いほどむし歯が多いという関係を紹介していただきましたが、交絡因子はないのでしょうか？

(アンサー)

ご指摘の「所得が少ないほど、むし歯が多いという関係」は相関関係を示した研究であり、因果関係を示す研究ではないため、交絡については検討されていません。つまり

「所得の低い集団とむし歯の多い集団は重なっているため、所得の低い集団はむし歯の苦痛、そしてむし歯治療の負担が重なり（社会的に問題となっている）」

という表現は（現在のエビデンスでも）できますが

「所得が低いために、むし歯が多い」あるいは「むし歯が多いために、所得が低い」

という因果関係を示唆する表現は（現在のエビデンスでは）できません。

【参考】

交絡バイアス 交絡因子（日本疫学会）

<https://jeaweb.jp/glossary/glossary014.html>

質問 2. どうしてフッ化物は日本人の食事摂取基準に記載されていないのでしょうか？

(アンサー)

2007 年に厚生労働科学研究班が作成した「ライフステージに応じたフッ化物摂取基準」を日本口腔衛生学会が承認し、引き続き日本歯科医学会でも承認され、厚生労働省に提案しましたが、その後、日本人の食事摂取基準に記載されなかった経緯については一般には公開されていません。

日本歯科医学会は「日本人におけるフッ化物摂取基準（案）」を推奨しています。

【参考】

Q フッ化物の1日における適性摂取量の目安（デンタルダイヤモンド.jp）

<https://www.dental-diamond.jp/qa/15/ippan1509.html>

【参考】

う蝕予防のための日本人におけるフッ化物摂取基準（案）の作成（口腔衛生会誌）

http://www.kokuhoken.or.jp/jsdh/publication/committee_report/file/report_2008-58-5-548.pdf

質問3. 妊婦さんがフッ化物の全身応用（水道水フロリデーションなど）を実施した場合、胎児にも恩恵はあるのでしょうか？

（アンサー）

胎生7週から10週頃には歯胚の形成時期となりますので、妊婦の摂取したフッ化物が、胎盤を通過し、胎児に恩恵をもたらす可能性はありそうに見えます。一方で妊婦の血中のフッ化物濃度が上昇しても胎児の血中濃度はほとんど上昇しない、という指摘もあり、現在では、有効性も害も確認されていません。そのため、妊婦と授乳婦における目安量と上限量は15-29歳女性と同じに設定されています。

フロリデーションファクトでは、出生から生涯を通じてフロリデーション地域に生活するのが、最もむし歯を防ぐとされています。

【参考】

歯はいつ頃からできますか？（テーマパーク8020）

<https://www.jda.or.jp/park/function/teeth-grow.html>

【参考】

Q：妊娠中の人がフッ化物を摂取しても胎児に悪影響はありませんか。また、授乳中の母親の母乳についてはどうですか。（テーマパーク8020）

https://www.jda.or.jp/park/prevent/index05_19.html